

地良いと感じ、それを自分で表現できるような日中活動を各グループで行っています。

Aさんは、人が集まっている様子や人の動きに興味があり、注視、追視する姿がよく見られます。また、物であっても興味・関心のあるものはジッと見つめ、左手でその物に触れることもあります。しかし、Aさんのそのような場面は毎回みられるわけでもなく、関心が高まり動作に出るまで時間を要したり、人の動きに興味があることで周囲を見て目の前のことに集中できないということもあります。Aさんの興味・関心を上手に引き出し、意欲的な左手の動きをより活動に活かさないかとグループ職員で考え、2〜3人の利用者とのテーパーで小麦粉粘土を作るという活動を行うことにしました。この活動では、人の動きを見て、その物に興味を高められ、Aさんが自分自身の気持ちに乗ってきたタイミングで動きを出せることを大切にして進めました。活動が始まるとAさんは職員が材料を準備したり、他の利用者が粉をふるったりする様子を見ています。次第に、Aさんは身体を前に傾かせ、目を大きく見開き強い眼差しに変化してきます。そして、水の入ったポウルを左手で勢いよく触ると水が跳ね、それがまた楽しいようで左手の動きは何度も続きます。

ポウルに触れる時はその物をジッと見つめ、狙いを定めているように真剣です。今までは物に触れ離す、というのがAさんの左手の動きだと思っていました。Aさんがテーパーに置いた小麦粉粘土を指先で捏ねるように触る動きも見られるようになりました。自分の行ったことを楽しいと感じられることで、またやってみようという意欲につながり、さらなる動きが出ることもあるのではないかと感じています。

私たち職員は日々利用者に向き合い、利用者の興味・関心に気づこうという思いを持ち続けることが必要だと思っています。その人の興味・関心を知ることがよりよい日中活動を行ううえで最も必要な事だと思えます。そして、あさひ利用者が職員や利用者同士と関わり合い、その人自身がより楽しいと思える日中活動を行うことで、あさひでの生活が充実したものとなるように取り組んでいきたいと思っています。

はるかのはるかの日常活動紹介 藤原 けい子

はるかは様々なタイプの人が生活しています。横地分類では、

A1の人が6名と多く、他の11名はA3、A4、B1、B2、B4、B6、D2、E1に分かれます。中には全盲の方や、難聴の方もいます。

日常活動は月々土の午前に行ないます。一人に当てられる時間は隔日で15分程度ですが、じっくりと表情を見ながら関わることのできる中身の濃い時間となっています。

障害のタイプにより楽しみ方に違いがあります。それまでの経験や興味にあわせた活動内容を個々に提供しています。

はるかの横地分類A1の多くの人は、振動や音、物に触れるというような感覚的な刺激に表情が動きます。バランスボールの上で揺れたり大きく体を動かしたりするとはつきりした良い表情になります。大きな動きや姿勢が変わるのが苦手な人はギターやスリットドラムのような音や振動の提供をします。Aさんは、音によく反応して笑顔になります。ギターの活動を始めたころは、音がすると笑い、バタバタと手足を動かしていました。続けるうちに、ギターを見ていることが確認できるようになりました。次第に目の輝きが増し、追いかけるようになりまし。近くにあると腕を当てようとすると動きもでてきました。口元に力をいれて手を動かそうと集中していることが分かり、やりたいとい

いう気持ちが見えました。

横地分類A3、A4の多くの人は、持っている素材を揺らしたり、積み木を倒したり、紙を破ったりと、物を扱うことができず。習慣的に物を触ったりいたりしてはいる場合も多く、気持ちが動くような働きかけに意識が向かないことがあります。働きかけを苦心しながら、やりたい気持ちを引き出して活気のある活動ができるようにしています。布を振ったりしごいたり投げたりするBさんは、ボールでも同じような一連の手の動きを淡々と繰り返ししました。普段は手を伸ばさないような位置にボールを持っていき、声をかけながら働きかけたり、ゆつくりと転がして手が伸びるように働きかけたりすることで、それまでには無いクスツと笑って意識を向ける表情やボールを追いかけるような手の動きが見えてきました。

横地分類Bの多くの人は、好き嫌い、やりたいやりにたくないという意思を表現できます。できたことを喜び表情や、ほめられたことを嬉しと感じている様子も伺われます。それぞれの興味のあるものを提供し、自分なりの目的をもつて集中して取り組むことで充実した活動になると考えています。Cさんはピアノに合わせて歌をうたいます。途中でテンポを変えたり止めたりまするとよく聴いて合わせよう

とします。手は思うように動きませんが、曲の途中で鍵盤を押すところをつくと、じつと集中して聴き、タイミングを待って鍵盤を押します。一曲終わると楽しそうな声が出ます。楽しみは活動終了後まで続くこともあります。

横地分類D2、E1の人は自分なりにどんな風にしたと出来上がり想像することができません。うまくいけば意欲が高まります。思うようにいかない場合はやる気が半減してしまします。身体機能を生かして、無理なくできる作業を創造的に行うことで充実感があるようです。不随運動のあるDさんは自分で筆を持ち塗ることはできませんが、色を指示して塗る場所を指定し、1つの絵を完成させています。作りたい色を想像しながら混ぜる色を指示します。最近では白紙の背景に複数の色をのせるようになりました。色は森であり石であり土であることを文字ボードで伝えることができました。

利用者理解は良い日常活動をする鍵となります。利用者の普段の表情や動きを知り、気持ちの表れとなる変化を見逃さず、より良い楽しみへと結び付けていくことで、生活のハリとなる生き生きとした時間になると考えています。